

3. 調査結果

3.1 浅層反射法弾性波探査

平成 11 年度および平成 12 年度の調査結果に基づき、撓曲帯の延長および撓曲の構造を把握するため、撓曲帯の想定延長部にあたる箇所では浅層反射法弾性波探査を実施した。

探査測線位置を図 3.1.1 に、解析測線位置を図 3.1.2 に示す。

本調査で実施した探査の緒元を以下に示す。

- | | | |
|--------------|--------------------------------|-------------------|
| ①探査測線： | No 1 測線 (1=3550m) | No 2 測線 (1=7840m) |
| ②探査目標深度： | 1000m 以上 | |
| ③震 源： | ミニハイブ | |
| ④受震器 | 速度型地震計<固有周波数 10Hz, 9 個グループ/CH> | |
| ⑤探査記録装置： | デジタル・テレメトリー型地震探鉱機 (G・DAPS-4) | |
| ⑥発震点間隔： | 5m | |
| ⑦受震点間隔： | 10m | |
| ⑧展開方法： | エンドオン and スピリットディブ | |
| ⑨同時収録チャンネル数： | 110 | 110~174 |
| ⑩スイープ周波数： | 16~100Hz | |
| ⑪スイープ長： | 14sec (リニア) | |
| ⑫標準垂直重合数： | 5~20 回 (標準 10 回) | |
| ⑬収録記録長： | 2 秒 | |
| ⑭サンプリング間隔： | 1 ミリ秒 | |

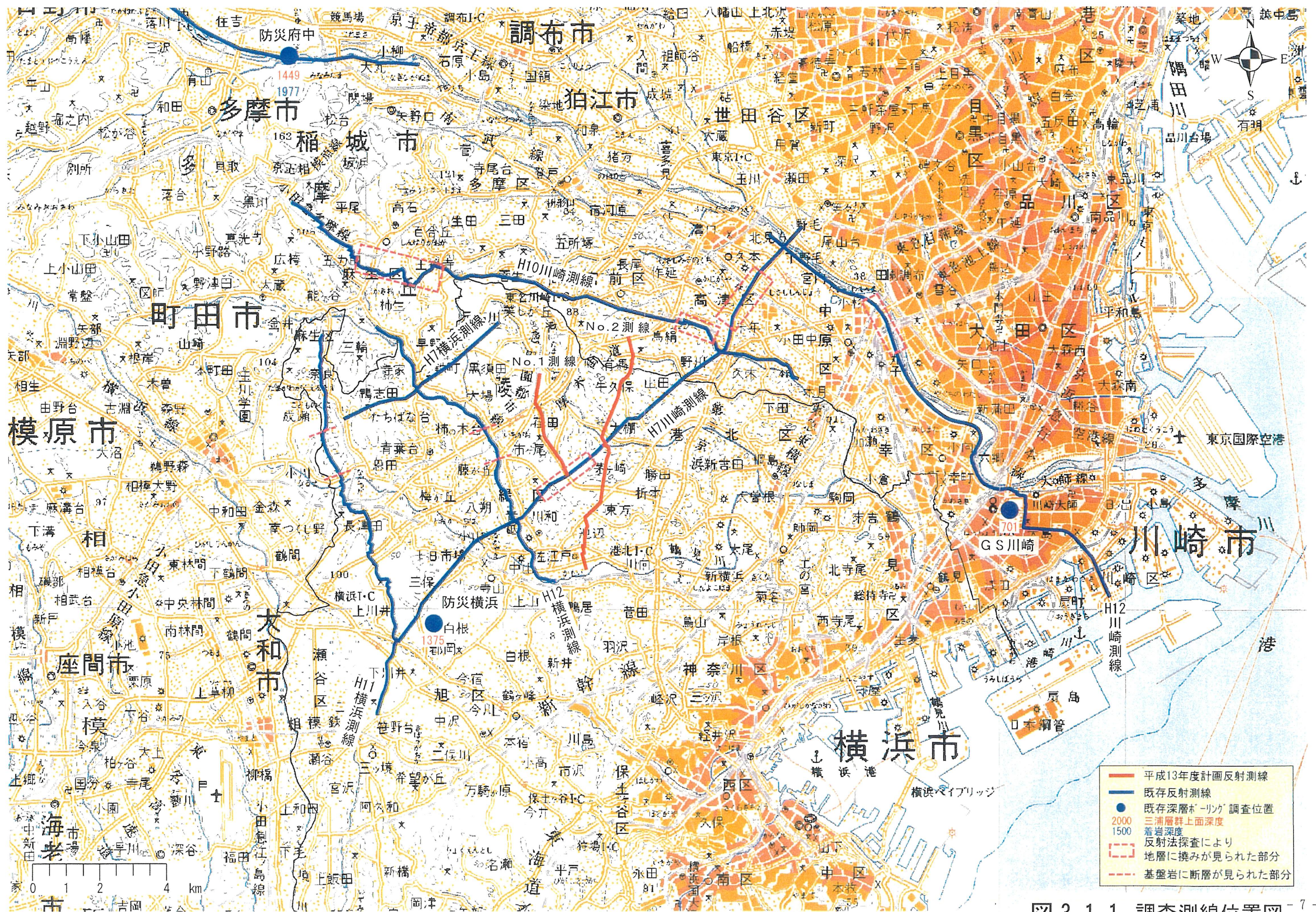


図 3. 1. 1 調査測線位置図 - 7 -

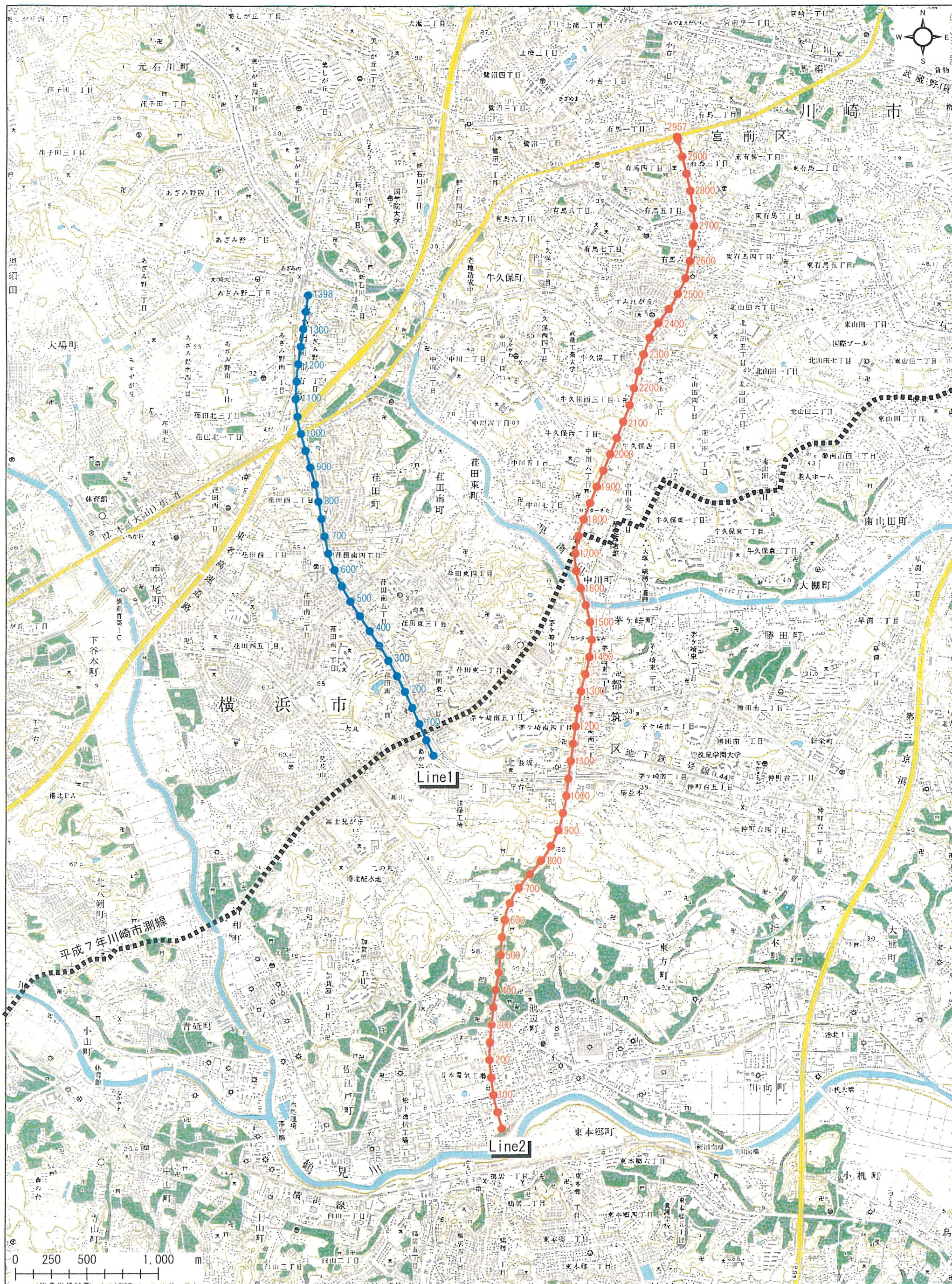


図 3. 2. 1 平成 1 3 年度反射法探査解析測線位置図